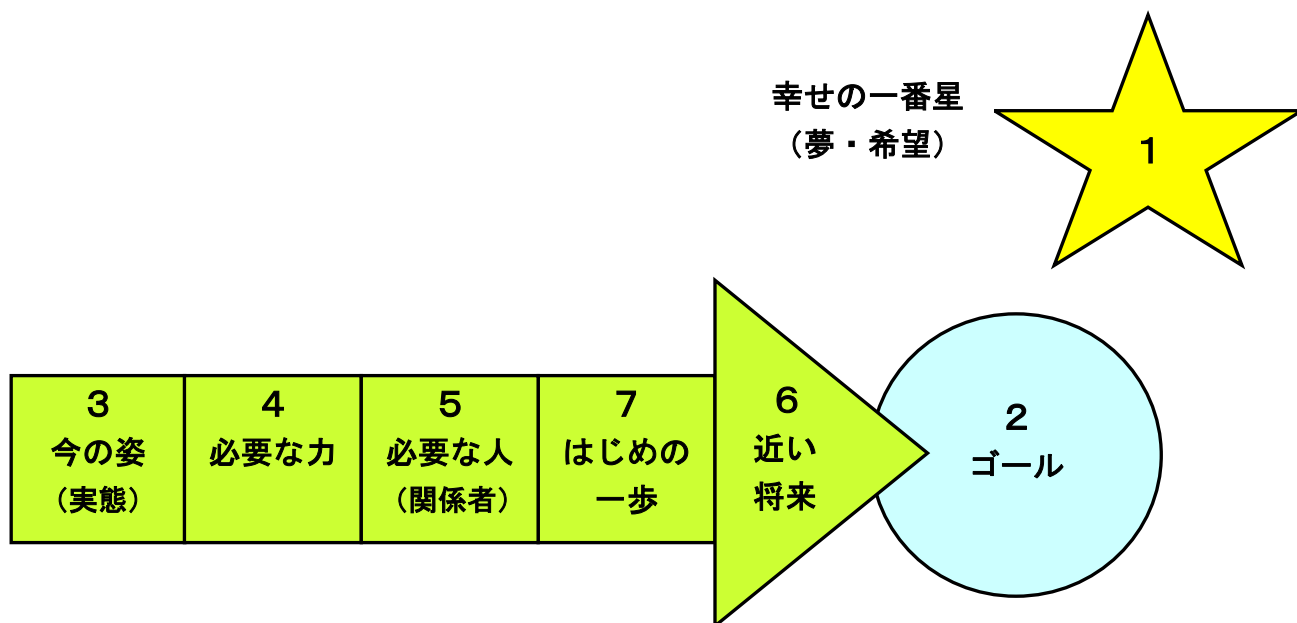


## PATHを活用した支援計画の作成

PATH (Planning Alternative Tomorrow with Hope「希望に満ちたもう一つの未来の計画」)とは、カナダで開発された手法です。

日本では、「障害のある人と関係者が一堂に会し、その人の夢や希望に基づきゴールを設定し、ゴールを達成するための作戦会議」として紹介されています。

PATHの手法を、学校での「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成や見直しの際の話し合い(ケース会議)や福祉サービスでの「サービス等利用計画(障害児支援利用計画)」や「個別支援計画(児童発達支援計画や放課後等デイサービス計画)」の作成や見直しの際の話し合い(ケース会議)などに活用することにより、子どもや家族の願いの実現に向けて、将来を見据えた生涯一貫した取り組みが行えることが望めます。



- <ステップ1> 障害のある人の「幸せの一番星(夢)」を皆で共有する。
- <ステップ2> ゴールを設定し、夢が達成できた時に何を感じているかを話す。
- <ステップ3> ゴールに向けて、今、どんな状態にあるのかを確認する。
- <ステップ4> 夢の実現のためにどんな力を身につけたらよいか、を話し合う。
- <ステップ5> 夢の実現のために必要な人が誰か? を確認する。
- <ステップ6> 近い将来、夢の実現に向けてどんなことをしているかを確認する。
- <ステップ7> はじめの一步として、参加メンバーがそれぞれの立場で何をするかを表明する。

## 支援の共有化のための記録（ケース会議などの記録）

氏名	所属機関	記入日	相談メンバー（ケース会議参加メンバー）	次回開催予定

<b>1. 幸せの一番星（夢・希望）</b> ◇ 利用者及びその家族の生活に対する意向（希望する生活） ◇

<b>6. 近い将来（半年後又は1年後の姿）</b> ◇ 長期目標 ◇

<b>2. ゴール（3年後の姿）</b> ◇ 総合的な援助の方針 ◇

<b>3. 今の姿（実態）</b> <small>（ゴールの姿と照らし合わせて、 できること・まだ苦手なこと）</small>	<b>4. 必要な力</b> <small>◇ 解決すべき課題 ◇ （本人のニーズ）</small>	<b>5. 必要な人（関係者）</b> <small>◇ 担当者など ◇</small>	<b>7. はじめの一步</b> <small>（まずはじめにすること） ◇ 短期目標 ◇</small>
<b>アピールポイント</b> <small>（いいところ・得意なこと）</small>			

<b>その他の記録</b>	
---------------	--